



市民参加の スポーツ大会

今年もスポーツを愛する大勢の市民の皆さんに参加いただき、前橋市民スポーツ祭の総合開会式が開催されることをうれしく思います。

市民スポーツ祭をステップに県大会や全国大会で活躍する選手も多く、本市は県内のスポーツ界にあって確固たる地位を占めています。

これも、選手皆さんの努力はもとより、体育協会や各競技団体、地区体育団体の関係者皆さんの努力のたまものと深く感謝いたします。

この後、市民スポーツの振興に貢献された皆さん、各競技で活躍された選手や指導者の皆さんが表彰されます。心からお祝い申し上げますとともに、これを励みに一層の活躍を期待いたします。

さらに本日は、第61回国民体育大会や第6回全国障害者スポーツ大会に出場される選手や監督、スタッフの皆さんにも出席をいただいています。皆さんには前橋市民の誇りと名誉にかけてベストを尽くしていただきたいと思います。皆さんのご活躍、ご健勝を心から祈念しましてあいさついたします。
(市民スポーツ祭総合開会式、9月25日、前橋テルサ)

ふれあい広場

まえばし シティフラッシュ



ゴミ問題に貴重な意見が

十月四日、ゴミ問題市民会議が市役所十一階南会議室で行われました。公募などで選ばれた二十一人が参加。三班に別れてゴミ減量やりサイクルについて議論し、班ごとに意見を発表しました。これらの意見が施策に生かされます。



差別のない社会に

市民文化会館で10月5日、人権・同和問題講演会が行われました。講師は数学者で、大道芸人としても知られるピーターフランクさん。独特の話術で時折、観衆の笑いを取りながら、分かりやすく人権問題を語りました。

共同募金呼び掛け

赤い羽根共同募金運動が10月1日から始まりました。初日には高木市長らが休日のにぎわう中心市街地の街頭に立って、大きな声で募金を呼び掛け。買い物を楽しむ家族連れなどが次々に浄財を募金箱に入れ、協力していました。



芳賀地区

鮮やかな花で 町づくりを

十月一日、小神明町で鮮やかな赤やピンク、白などのコスモスや彼岸花が咲き誇り、花見会が行われました。今年で十五回目。参加者は農地や道路脇の秋風に揺らぐ色鮮やかな花々を觀賞しました。その後、小神明町公民館で女性たちが自慢の手料理を振る舞い、和気あいあいと花の会話をしながら、楽しい一日を過ごしました。

萩原利美自治会長は「花は心が和むもの。将来は四季を通じて、この町を花いっぱいにしたいですね」と話していました。



軽スポーツで 親ぼく深める

本庁管内



六供町生川自治会のグラウンドゴルフ大会が、十月一日、南町四丁目の市之坪公園で行われました。初心者からベテランまで五十人の選手が参加し、八組に分かれて組別対抗戦を実施。慣れない芝の上でのゲームは混戦でしたが、みんなで大いに盛り上がりました。婦人会と育成会の役員が作った豚汁も振る舞われ、みんな大喜びです。

伊藤精自治会長は「子どもからお年寄りまで、みんなが楽しめる行事をこれからもずっと続けていきたいですね」と話していました。

当たり前という幸せ忘れず

先月二十四日に行われた県少年の主張審査会で優秀賞に輝いた。題は「当たり前という幸せ」。ユニセフ関係者の講演会が通学する五中で行われ、発展途上国の子どもの映像を



少年の主張県審査会で優秀賞
摩庭 理沙さん(15)
文京町三丁目

見て話を聞き、自分を見つめ直したという内容だ。

「四百リレーの走者として全国大会出場を目指していましたが、県大会前の練習中、肉離れに。完治しないけがにいら立ち、焦り、家族や仲間にあたつてしまうこともあり、理沙は大会出場しませんが、何とか優勝できました。家族や仲間の支えで大好きな陸上を続けられ、全国大会へ行くの幸せ。当たり前過ぎて忘れていたことに気付いたんです」

二歳上の兄が陸上部に所属していて、入学時に顧問の先

生らに誘われ入部。昨年の夏からは部長を務めていた。

「授業では国語が得意です。小さいころから作文や読書が好きですが、全国大会を終えても、今度は受験勉強が忙しくなつてしまひ、なかなか小説を読む時間もありません」

将来は世界に目を向け、できれば留学もしたいという。

「感じたことや感動したことや人に伝えたり、文章にしたりする仕事ができればいいな。そのためには、幅広く学ばなくてはと思っています」

目標や夢の実現に、これからも着実に歩んでほしい。